

EVENT GUIDE

■ 中学校説明会・入試体験会

中学校オープンスクール 授業体験会 [ミニ説明会あり]	7/14 [土] 11/18 [日]
中学校説明会	3/17 [土] 4/21 [土] 5/13 [日] 10/13 [土] 11/25 [日] [入試解説会あり]
中学校ナイト説明会 (会場:池袋)	6/15 [金] 9/19 [水]
中学校入試体験会 [ミニ説明会あり]	10/28 [日] 12/16 [日]

■ 学校行事

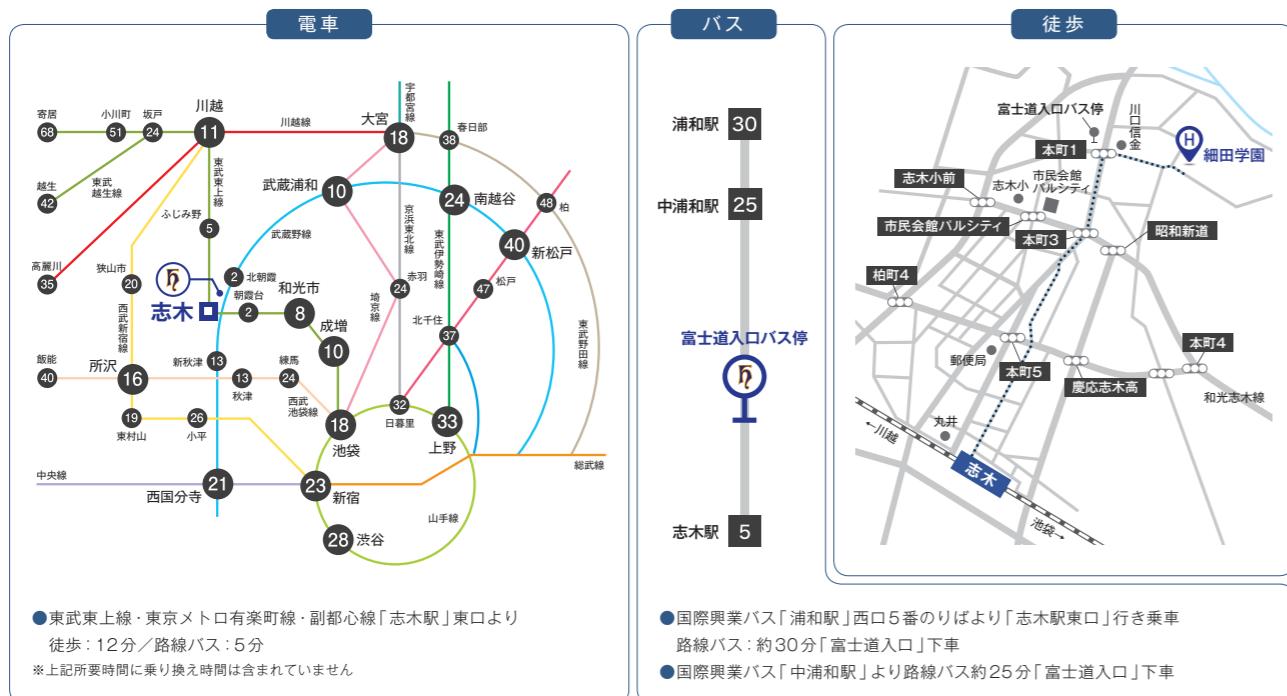
学園祭【白梅祭】
(高等学校)9/8 [土] · 9/9 [日]
※9日のみミニ説明会あり

HOSODA GAKUEN JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL GUIDE BOOK 2019

Making dots
and
Connecting the dots

2019年4月 開校予定

ACCESS



学校法人 細田学園
細田学園中学校・高等学校

〒353-0004 埼玉県志木市本町2-7-1
TEL: 048-471-3255 FAX: 048-472-6905

<https://www.hosodagakuen.jp/juniorhighschool/>



学校法人 細田学園
細田学園中学校・高等学校

未来を生きる君たちへ 2040年の未来予測

皆さんがあなたの未来はどうなっているでしょうか。

AIやテクノロジーの進化、情報量の爆発的な増加、環境問題、人口問題、医療の発達による倫理観の再検証、

変化スピードの加速度的な上昇、それに伴う新たな職業の発生と消滅など、

今までになかった問題、課題が次々と現れ、それらと対峙し、

解決、対応しながら生きていくことになるでしょう。

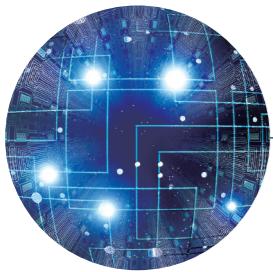
AIの進化、協同へ

AIは友達！？パートナーとしてのAIと協同する世界へ



テクノロジーの進化

超電導リニア、自動運転車、自動翻訳機、生活はさらに便利に



情報量の爆発的増加と認知の限界

毎秒、約1エクサバイト!?の情報が生まれる未来



医療の発達、倫理観の再構築

寿命が延ばせるようになったとき、人間は寿命を延ばすのか



生き方・あり方の劇的な変化

今ある職業はもうないかもしれない、働く時間も短くなる？



変化スピードの上昇“アッセレランド”

変化のスピードは“だんだん速く”なっていく

Making dots
and
Connecting the dots

最高の原体験を。そして未来へ。

dots 教育

新たな時代を力強く生き抜くために、細田学園では中高6年間という人生で最も多感な時期にたくさんのdots【原体験】を得るべきと考えています。

本学園ではdots【原体験】を、その人の考え方、生き方を形づくる経験としています。この時期に、いかに素晴らしいdots【原体験】を手に入れるかによって、その後の人生は大きく左右されると考えています。何が好きで、何が苦手か、どのようなものに興味、関心があり、どのようなことに人生を通して関わっていきたいのか。これから出会うすべての「人」「もの」「こと」が生徒のdots【原体験】となり、生徒自身の個性、価値観を育むこととなります。この6年間で自らを創り、自らへの理解を十分深めることで、目まぐるしく変化する時代の中を、自分らしく、たくましく生きていくことができるようになると私たちは考えています。



2019年4月、細田学園

に中学校が誕生します。

dots教育を通して培う “3つの力”

01. 未来創造力

P05 — P10



DITO METHOD

次世代型教育 DITOメソッド

PROGRAM FOR UNIVERSITY

新しい大学入試制度への対応と最難関大学への合格プログラム

ICT IN EDUCATION

ICT教育

LEADERSHIP

リーダー教育

SUBJECT WEEK

教科横断型授業

01 未来創造力

未来を創り出せる人になるために、
最先端の次世代型教育を実践し、
その土台となる確かな学力を
養成します。

02. 国際力／英語力

P11 — P14

ENGLISH BY DITO METHOD

DITOメソッドを活用した英語教育

POEC

オンライン英会話

STUDY ABROAD

中長期留学制度

ENGLISH CAMP

イングリッシュキャンプ

SUPPORT

海外大学進学サポート

03 人間力

人間にとて最も大切な力を育むために、
愛と奉仕の精神のもと、他者を愛し、
愛される人へと成熟することを
目指します。

03. 人間力

P15 — P18



PHILOSOPHY

建学の精神 愛と奉仕

PRIMARY CLUB

部活動

SECONDARY CLUB

選択クラブ(集中教養講座)

EVENT/CAMP/FIELDWORK

行事／合宿・宿泊行事／フィールドワーク

CAREER DESIGN

キャリア教育

02 国際力・英語力

国際社会で活躍できる力を養うために、
海外でも十分に通用する英語力を
身に付け、多様な国際体験を
積んでいきます。





未来創造力

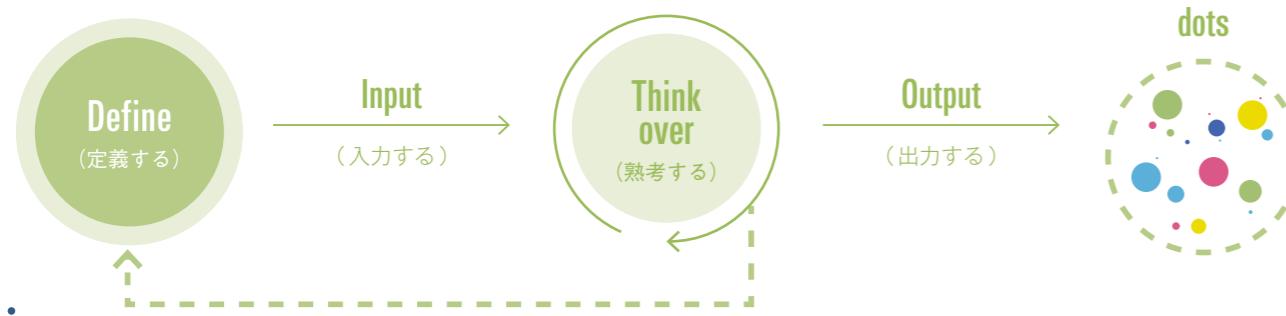
“The best way to predict the future is to invent it.”

未来を予測する最善の方法は、自らそれを創りだすことである ——— アラン・ケイ

DITO METHOD

次世代型教育 DITO メソッド

未来を創造するためには、「捉える力」「考える力」「動く力・動かす力」「乗り越える力」が必要です。その力を身に付けるために、細田学園独自の学びの手法として「DITO」メソッドを採用しています。「DITO」とは、学びを深めていくときの「Define(定義する)→Input(入力する)→Think over(熟考する)→Output(出力する)」という一連の行為であり、この行為を繰り返し行うサイクルのことです。この一連のサイクルを繰り返すことにより、多面的に、深く dots【原体験】を獲得できると考えています。細田学園の全ての学習活動は「DITO」を意識してデザインされており、これを日常的に何度も繰り返すことによって、生徒は自然と「捉える力」「考える力」「動く力・動かす力」「乗り越える力」を身に付けることができます。



DITOを適用した授業例

「地球環境を守る提案をしよう」

中学3年生の理科「自然と人間」の授業テーマです。

次世代型教育 DITOメソッドで行われる授業の流れをたどってみよう！

DITOメソッドを適用した授業では、自分の興味・関心や重要視する事柄を明らかにし、知識や情報の収集に取り掛かります。自らの「D」に基づいた活動であるため、学びが主体的で効果的であることが特徴です。また教科教育にとどまらず、全ての活動がDITOメソッドを基礎としているため、学校生活を送るうちに生徒の興味・関心が自然と明らかになり、将来の活躍するフィールドを選択する際に多面的な根拠となります。

自分なりの「課題」を設定しよう

自分は地球環境の何に興味があるだろう、生き物、海、資源？そうだ、毎日、家で使っているから「電気」に関係することを調べよう。でも、どうして「電気」が気になったんだろう…。

POINT

課題の概要を調査しながら、自分が貢献する分野を決定し、同時に自分がその分野を選択した根拠を考えます。選択の理由は低学年時には「好奇心や興味」で構いませんが、「D」の回数を経て選んだ根拠を積み重ねるうちに、興味の共通点がわかり、自分の「dots」が明らかになっていきます。



必要な知識を集めよう

まず、発電や送電、エネルギーについて調べてみよう。自分で調べたり、実際に働いている人も聞いてみよう。エネルギーの計算も知らなかつたなあ。こうなっているのか！

POINT

グループで既習の知識を整理し、不足している情報を集めます。文献調査に留まらず、時にはフィールドワークやインタビューを実施。収集する知識・情報は全て自らの「D」に基づく「O」を目的としたものであり、学びの活動が主体的になるのは必然です。



情報を整理してアイデアを生み出そう

発電は地球環境に影響を与えることがわかった。であれば、環境による発電方法すべての電気を賄うことはできないのかな？候補をいくつか出して、先生やみんなと話し合ってみよう。

POINT

収集した知識・情報から、課題を解決する日常の事柄を仮定して、新規アイデアを創出します。影響や効果の定量性を検討するため、ICTツールを用いたシミュレーションや実験も実施。教員からのフィードバックや、グループでの議論を経て、何度も「I」や「D」に戻り、思考を深めています。



発表して、みんなから意見を聞こう

スマートグリッドで電力消費量がコントロールできれば、太陽光発電をはじめとする、クリーンな発電方法すべてを賄うことができそうだ！でも、具体的な方法についてはみんなから疑問の声が多くあったなあ。再調査して、また来週、みんなに提案してみよう！

POINT

「T」で創出した提案をまとめ、プレゼンテーションをします。結論に至った根拠を論理的に説明し、相手を説得する訓練を重ねると同時に、他の人の発表に対する質問力も磨きます。発表でこの活動は終わりではありません。実際に日常で提案を実施して、改善や継続の仕組みを考えていくと、新たな「D」が生じます。DITOの学びは永続的です。



DITOで行われる 2040年に向けた次世代型教育

理科科

100の実験で「理解」から「未来」へつなぐ理科

～科学的思考法による探究と創造～

理科では、自然現象の中にある疑問や課題を明らかにし、仮説立てて論理的に検証する一連の科学的思考法を学びます。授業では「なぜだろう?」「おもしろい!」と好奇心を抱けるような題材を取り上げ、確かな判断材料を得て(知識の選別・蓄積)、自分なりの考えを持ち(仮説)、その正しさを確認(検証)、誰もが納得できる説明の組み立て方(論理)を、くり返し訓練します。これらは客観的な根拠を提示するために

広く認められた手法であり、日常生活でも必ず役立つスキルです。普段から「根拠」をもとに「こたえ」を出し、自身の将来においても確固たる意志をもって選択できる人になって欲しい。この思いから、すべての実験・観察・体験のなかに科学的思考を育む要素を散りばめています。中高6年間を通して自らの「根拠」を築いたとき、皆さんは自らの考えで「未来」を創ることができる人になっているはずです。



山中 聖子 教諭

D Define
「関心を持ち、疑問を抱く」
「何を課題と捉えるか決定する」
好奇心に基づく選択をしながら、自ら選んだものに根拠を付ける訓練を重ねます。自分が何を課題と捉えるか、根拠がどのdotsに依るものか、年月を経ていくうち明らかになっていきます。

I Input
「幅広いフィールドの知識の蓄積」
適切な判断のために、知識は非常に重要です。また、何か新しい考え方を生み出すとき、全く関係ないと思っていた知識がつながることがあります。教科書だけではない、実験・観察・体験などを通して広範な知識を獲得します。

T Think over
「科学的思考法の獲得」
蓄積した知識から、課題の本質が何かを見極めて仮説を立てます。仮説の裏付けを論理的に検証するプロセスを繰り返し、ときには批判的な態度で取り組む科学的思考法を獲得します。

O Output
「論理的な表現」
「課題の解決と新たな提案」
IとTを繰り返し、設定した課題を解決してもそれで終わりではありません。周囲を説得する表現手法を学びながら、ふたたび湧き上がる疑問を解決し、新たな提案につなげます。

数学科

数学を通して本質を追求する力を高める

～高度な思考と緻密な論理～

数学は時代を超える世界のどこでも通用する普遍的な学問です。それゆえ、自然科学はもちろんですが、経済学や情報科学など多くの分野とのつながりがあります。数学を学習する上で大切なことは、単に公式に数字を当てはめて答えを求めるのではなく、試行錯誤をくり返し、物事の背後にある「本質」を論理的に追求することです。本校の数学の授業では、課題に徹底的に向き合い、何が問題なのかを捉え、分析し、目標を定め、自分なりに

解決法を導き出すことを重視しています。そうした経験を積むことで、物事を論理的に考える力や本質を追求する力が身につき、また難しい問題にもチャレンジし続ける「思考体力」や考えることに喜びを感じ、考えることが好きになる「思考意欲」に向かっていきます。こうした力を身につけることで、新テストをはじめとする大学入試に対応できる力はもちろん、社会に出たときに求められる問題解決能力を習得できると考えています。



箕輪 拓巳 教諭

D Define
「問題を捉える」
「問題解決のための見通しを立てる」
自分なりに課題を捉え、「規則性を見つける」「帰納的に考える」など、解決への糸口を探っていきます。

I Input
「数量や図形などに関する基礎的な知識」
「数学的な概念の理解」
数学は「積み上げ型」の教科です。より高度な内容を学ぶために、早期に搖るぎない基礎学力を身に付けることが大切です。

T Think over
「論理的な考察」「多面的な見方」「よりよい方法の探求」
一つの方法でうまく解けるとは限りません。粘り強く試行錯誤をくり返してさまざまな方法を検討していく、物事を多面的に見る力を養います。

O Output
「数学的に表現する力」
物事の特徴や性質を数や式、グラフや図といった数学的な手法を用いて的確かつ明瞭に表現する力を養います。

国語科

自己を見つめ、他者を知り、共に未来を創る

～読書と表現活動を通して、豊かな感受性と新たな視座を獲得する～

「やまと歌は、人の心を種として、よろづの言葉とぞなれりける。世の中にある人、ことわざ書きものなれば、心に思ふことを、見るもの聞くものにつけて言ひ出せるなり。」これは、平安時代の和歌の大作・紀貫之の言葉です。人は心が満ちたとき、その思いは言葉となって表現されるものだということ。そして、人には皆、心を動かされる体験が数多くあるので、その時に生じた思いを見聞きしたものに託して表現するのだと記しています。本校では、国語を学ぶ本質はこの言葉にあると考

えています。ある物事に触れたときに、心が動かされ、自分内に芽生えた思いを表現し、他者に伝えていく。他の者は、自分には無かったものの見方、考え方を知り、新たな視座を獲得する。「触れて(Input)、感じて(Feel)、生じた思いから自分の視座を決めて(Define)、知識を蓄えて(Input)、思考を廻らせて(Think over)、他者に向けて表現し(Output)、また新たな視座を獲得する(Define)」。この一連の学びの流れが、国語の授業の本道だと私たちは考えています。



篠塚 裕介 教諭

D Define
「自らの視座を明確にする」
「問い合わせし捉える」
「何を表現したいのかを方向付ける」
国語における思考の出発点となります。これによって、この後の学びがどの方向に深まっていくかが決まっていきます。

I Input
「読書によって感動する体験を重ねる」
「過去・現在の文化や価値観、パラダイムを知る」
「効果的な伝達方法を学ぶ」
あらゆる活動は知識の習得を前提としています。考える素材を得ることは、学びの初步であり、肝要な部分といえます。

T Think over
「作者のねらいを自分なりに考察する」
「物事を論理的に考え、他者の主張を理解する」
「立場や考え方の異なる人を理解しようとする」
知識を得たら、それを材料に思考を重ねていきます。より効果的な表現や筋の通った論の展開などを追求していきます。

O Output
「自分の作品を生み出す」
「他者に自分の考えを伝える」
コミュニケーションの本質は「表現すること」と「他者の考え方や思いを受けとること」です。自分の考えを表現するだけでなく、他者の思いを受容して、新しいものの見方を知ります。

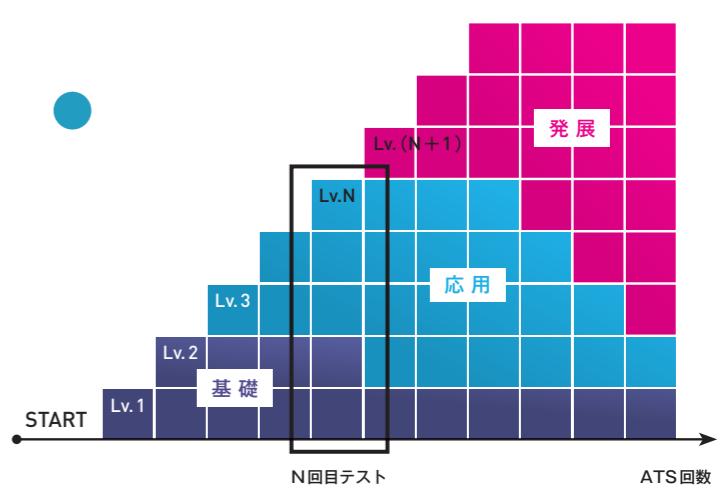
新しい大学入試制度への対応と最難関大学合格への学力養成プログラム

[新しい大学入試制度対応の学習指導]

2020年に始まる予定の「大学入学共通テスト」に向けて、新しい大学入試制度対応のカリキュラムを準備しています。中学校の低学年時より論理性や思考力を重視した定期テストを課し、知識偏重型ではない、新たな大学入試で問われる思考力・判断力・表現力を育成します。

[段階別達成度テストATS]

学んだ知識を発展的に活用できるレベルに高めるには絶対的な知識の定着が必要です。そこで、最難関大学レベルにも対応した独自の学力定着プログラムATS(Achievement Tests by Stages)も次世代型教育カリキュラムに併せて実施します。これは教科・科目を複数の主要分野に分け、基礎から発展的な事項まで、段階別の問題を用いて苦手分野がないかどうかを確認するテストです。このテストを繰り返し受験することによって、習熟度が高まるのと同時に目指すレベルまでの不足事項を明確にし、学習の効率化を図ります。



01
未来創造力

次世代の社会を担う リーダーを育てる

(文)省「学校基本調査」(昭和25年以前については「文部省年報」。)



学園生活の全てを繋ぐICT

一人ひとりに1台のノートPC



生徒たちは、一人ひとりが1台のノートPCとともに学園生活を送ります。授業もHRも行事も総合学習も、あらゆる活動を1人1台のPCが繋いでくれます。生徒主体でアクティブに展開していく授業も、校外でのHRも、行事の計画も、リーダー教育も、すべてにおいて、ICTがその活動を広げ、深めてくれます。ICTによって「いつでもどこでも学びの場」が実現しています。

リーダー教育



01

考え方・動き方を知る

02

現状把握

03

課題抽出

04

解決策策定

05

フィードバック

世界の変化スピードが加速し、ますます先行きが不透明になっていく中で、細田学園は「さまざまなフィールドで、世の中の発展をリードする人間を育成する」ことを教育目標として掲げています。その実現のために、細田学園では独自のリーダー教育を実施しています。リーダー教育では、リーダーとしての人間性を高めていきながら、グループを率いて行くためのスキルや方法論を身につけることを目指しています。自分の頭で考え、意見を持ち、表現し、議論し、分かち合い、解決策を見出し、発表し、フィードバックをもらう。この一連の経験によって、生徒たちは社会を動かしする力を培い、やがて「世の中の発展をリードする人間」に育っていくと信じています。

日本や世界で起こり得る社会問題を題材に、左記のような段階を踏みながら、グループで協力して解決策の策定まで議論を重ねます。その後、各業界で活躍するプロからのフィードバックを通して、本物のリーダーの考え方と動き方に触れることで、さらに思考を深めます。

01 考え方・動き方を知る

物事をどう考え、
どう行動するのだろう

物事を分析する方法、着眼点を整理する方法、新しいアイデアの発想法などを、具体的な題材を基に模索していきます。

04 解決策策定

各班それぞれの解決策をプレゼンテーション

各班それぞれの視点から導き出された解決策をしっかりと伝えるために、データの出し方にも気を配りながら、最善のプレゼンテーションを模索します。

02 現状把握

提示された課題の裏には
何があるのだろう

生徒たちに具体的な社会課題が提示されます。例えば平成28年度は、東京都知事から「待機児童問題を解決せよ」との特命を受けたというケースでした。

03 課題抽出

私たちはその課題に
どう対処するのか

議論を繰り返し、直面している本当の課題は何なのかを探っていきます。PCを利用しながら、客観的な裏付けを踏まえ、論理的に課題を抽出していきます。

05 フィードバック

リーダー教育のフィードバックはプロから

生徒たちが将来リーダーとして社会をけん引することを見据え、各業界の第一線で活躍するゲストスピーカーからフィードバックを受けます。

いつでもどこでもICTでつながる

教科横断型授業



本校では独自の教科横断型の授業週間「Subject Week」を設定しています。これは学期に一度、設定したSubject(テーマ)に沿って全教科の授業が一斉に展開される企画です。この学びによって、物事に関する多面的な知識や視野を身につけ、物事を立体的に正しく捉える力を養います。教科の境界を越えた統一したテーマ学習において、ICTを活用することにより、多くの情報をまとめ、整理し、議論することが可能になります。それによって自分の興味関心がどこにあるのかをより明確に知る機会となります。

放課後／課外



ICTの活用により、時間と場所の自由度が格段に上がります。先生と直接メッセージのやり取りができるので、空いた時間を有効に活用できます。自宅での学習も、時には友人とビデオチャットで議論したり、共有ファイルでグループ課題に取り組んだり、ともに励ましあって試験勉強に挑んだりすることもできます。放課後も自宅も学びの場へと変化していきます。

プログラミング教育

プログラミング教育を通して社会で必要とされるICTスキル、論理的思考力を身につけ、新しいアイデアを実現するための力を育てます。

Step 1 (ICT基礎)

社会で必要とされる情報リテラシーを習得し、ICTスキルの基礎を固める

- 実施内容
 - ・Chromebook
 - ・Googleドキュメント
 - ・Edmodo
 - ・タイピング道場

Step 2 (プログラミング基礎)

自由な発想を実現するためプログラミングの基礎的な能力を習得する

- 実施内容
 - ・アルゴリズム
 - ・ALGO-LOGIC
 - ・Scratch
 - ・プログラミング道場

Step 3 (プログラミング応用)

課題解決の為の試行錯誤を通して論理的思考力を育てる

- 実施内容
 - ・Raspberry Pi(予定)
 - ・Python(予定)
 - ・Scratch
 - ・プログラミング道場

Step 4 (自由制作)

3つのStepで修得したICTスキルを土台に興味とスキルに応じた制作をする

- 実施内容
 - 個人またはグループで自由に考えたアイデアを形にし、発表する



国際力・英語力

“The limits of my language mean the limits of my world.” —ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタイン
自らの言語の限界は、自らの世界の限界を意味する

細田学園の考える 国際力・英語力 海外大学進学も見据えて

TARGET

6年間の学習を通して、国内外問わず活躍できる確かな英語力を養います。



CEFR B2の英語力をを目指し、学習に取り組みます。CEFRとは言語や国籍を問わず外国语学習者の到達レベルを知ることができる共通の参考基準です。B2に達すれば海外難関大学への進学も可能なレベルとなります。この目標を達成し、自信をもって国際社会で活躍していくよう、授業内容、学習環境、留学プログラムなどを整えています。

英語科

国際社会で活躍できる、もっとなりたい自分に

細田学園の英語学習では、「英語を学び」「英語で学ぶ」ことを目指しています。様々なバックグラウンドを持った講師陣と語り合い、多種多様なジャンルの学習素材や言語活動を通して世界の情報を浴び、自分が見える世界を押し広げます。また発表・自己表現の機会を通してコミュニケーションスキルを磨きます。そこに与えられるフィードバックによって客観的に自分を見つめ、深めていきます。細田学園の

英語学習は、単に英語という道具を獲得する作業ではなく、世界に対する新しい見方出会い、より広い世界に暮らしている自分を見つめ直す過程なのです。人生の中で最も多感な中高6年間の英語学習を経て、十分な国際感覚を身につけ、グローバルな社会の中で、自分がどのように生きていきたいのかを見つけていくことでしょう。



萩原 貴之 教諭

「国際社会の一員として選択する」「主張したいことを決める」
「！」と「〇」を繰り返し行う過程の中で課題をより具体化したり、興味の幅を世界に広げ質を深めていくことで、国際的な視野を意識しながら選択・決定ができるようになります。

「幅広い分野の文章を読む」「バックグラウンドの違う人々とやりとりする」
4技能の統合的な活動を通して多種多様な内容を扱い、英語を母語とする人々特有の思考法や物事の見方を知ることにより国際力を高めます。

「主張を伝えるための適切な表現を考える」「国際的な視点からの評価を受け、再考する」
言いたいことを伝えるための効果的な方法を考えます。国際的な視点からフィードバックを受けることで克服すべき課題を理解し、今後の学びの道筋を考えます。

「英語で要約する、意見を述べる」「英語特有の論理展開を用いて話す、書く」
興味のあるものを調べてまとめ、発表し議論します。発表後、質疑応答や意見交換などを繰り返し、表現力を向上させることにより、国際社会により必要な批評能力を身に付けていきます。

オンライン英会話 POEC



海外と毎日つながる

海外の講師とオンラインで繋ぐPOECというマンツーマンの英会話レッスンを週5日、毎日行います。本校独自の教材、カリキュラムのもと、授業と連動させることにより、学校で学んだ内容をアウトプットする機会を十分に確保します。毎日英語を使う環境を整えることで、自然な英語を自然な形で学び、発話力を培います。表現力の向上はもちろんのこと、外国語を使用し意思疎通を図ることの喜びを日々体感し、異なる文化の中で生きる人と意見交換をするための素地を養います。



STUDENT'S VOICE

高校1年生 Yさん



毎朝オンライン英会話ができるることは想像以上の効果があると実感しています。授業で学んだことを実際に使うことで、伝わる喜びを感じ、普段の授業に対する意欲も湧いてきます。入学後、英語が私の一番好きな教科となりましたが、学習意欲の源となっているのはこのオンライン英会話です。

海外でのdotsが キミの生き方を大きく変える

中・長期留学制度

中2～高2 希望者制



3か月～1年間の派遣・交換留学を希望者対象で行います。ホームステイや学生寮などの日常生活の中で異文化を体験します。多様な国籍の学生達とともに授業を受けることや、現地の高校生と生活することで自然と英語を身に付け、様々な國の人達の考え方や行動の違いを体感して理解します。早期に留学することにより、帰国後、希望進路が日本の大学であっても海外の大学であっても準備期間を十分確保した上で受験に臨めるようにプログラムを組んでいます。留学に何を求めるのか、何が学びたいのかを考え、一人ひとりに合った学校で学んではしいと考えています。



海外トップレベル大学での語学研修

高1～高2 希望者制



世界のトップレベルの大学へ訪問します。そこで行われる講義の受講や最先端の研究所の視察などを行うことにより、世界では何を課題とし何が行われているのかを理解します。現地大学生、研究者、様々な分野の専門家から現代社会の様々な課題について学び、ディスカッションやワークショップなどの活動を通して、英語力だけでなく新たな視点で物事を考える力を養います。研修で学んだことをどう生かしていくのかを考え、発表する機会を通して、将来したいこと、できることを、幅広い視点から捉えて、自分の未来を見つめ直します。

イングリッシュキャンプ

中1～高2

希望者制

10日間英語漬けのEnglish Campでは、短期集中で英語力・表現力を向上させることに加え、人や文化とのふれあいを通して、互いを理解する感覚を養います。

POINT 1

1日を通して、個人に合わせたきめ細やかなレッスンを行い、確実な語学力向上を目指します。講師1人に対して原則生徒2人制のマンツーマンに近いレッスンです。

POINT 2

スピーチ、プレゼンテーション等の発表を通して、豊かな表現力を身につけます。自らの意見を他者に伝え、試行錯誤して目標に近づく過程では、大きな成長を感じられます。

POINT 3

本校教員も同行し、初めて留学を経験する人にとって挑戦しやすい環境を整えます。世界トップレベルの英語力を誇るフィリピンで、国際力も身に付けます。



国際体験学習

高2

広い世界を見て、感じて、学ぶ

早い時期から海外に目を向け、様々な視点から日本や世界を見る上で国際感覚を身に付けることを目的としています。日本とは異なる文化・歴史を持つ国を訪れ、現地校との交流や、現地の大学訪問を通して、海外の人々や文化に触れることができます。環境の違いを体験する(目で見て肌で感じる)ことは、将来国際社会で活躍するための大きなdots【原体験】となるでしょう。



STUDENT'S VOICE

高校2年生 Yさん



国際体験学習を通して、一番驚いたのはシンガポールやマレーシアがとても国際的だったことです。様々な民族が一緒に暮らしており、まるで一気に5つの異なる国を訪れているようでした。現地の高校を訪問したときには、3カ国語も話せる生徒がおり、感心しました。私も今後英語の勉強に真剣に取り組み、将来的には彼らのように3カ国語以上話せるようになりたいです。



海外大学進学サポート(欧米向け)

高2～高3

希望者制

国内ではなく海外の大学への進学を希望する場合、海外留学や国際教育に精通した企業と協力しながら、海外大学進学の全般をサポートしていきます。海外大学進学が実現できる環境を整えています。



人間力

“Education has for its object the formation of character.”

教育の目的は人格の形成にある ——— ハーバード・スペンサー

建学の精神

「愛と奉仕」

本校の建学の精神は「愛と奉仕」です。「愛と奉仕」には、人間性、意志、勇気という創立者の思いが込められています。“人間性”は人間の持つ本質的な良さ、“勇気”は正しいことを行う強い心、“意志”は自ら決めたことをやり続ける気持ち。この3つを体現できることが、社会で善い人間として信頼されるようになると考えています。

LPPICS 学園生活のあり方 ~日常生活で身につけるべき5つの重点~

中高6年間という人生で最も多感な時期に、学校行事や部活といった特別な活動だけではなく、学園生活の日常の中で身に付けてほしい5つの重点がLPPICSです。LPPICSとは青年期に確立しておくべき、全ての基礎だと考えています。建学の精神「愛と奉仕」、心身ともに健康な生活習慣、ポジティブに考え、チャレンジする姿勢、そして感謝と反省。人として当たり前の習慣を学園の日常で身に付けていきます。



LPPICS

Love and service

【愛と奉仕】

建学の精神を学ぶこと

「建学の精神を学ぶ」時間で、「愛と奉仕」に込められた“人間性”“意志”“勇気”を学び、それを日常の中で実践することで身に付いていきます。



Practice

【生活習慣】

習慣が然らしむること

習慣化した「挨拶、身だしなみ、時間の厳守、規則の遵守」は人としての基礎です。また、読書や自習など、学習面も習慣化し、生涯学び続ける姿勢を身に付けることができます。



Positivity / Independence

【ポジティブ／主体性】

自発的かつ前向きに行動すること

行動をする時、どのような心持ち、姿勢で挑むかによって、結果は大きく変わっていきます。普段から、何事もポジティブに考え、自分の個性を存分に生かし、自発的に行動を学んでいきます。



Challenge

【チャレンジ】

挑戦する人であること

チャレンジ精神を尊重します。学園生活の中で、たくさんの dots 【原体験】に挑戦をし、たくさんの成功や失敗を体験することで、一つひとつの dots 【原体験】が個性となり、夢に繋がります。



Self-reflection

【感謝・反省】

感謝し、省みること

すべての dots 【原体験】で経験する成功や失敗の結果に対して、素直に受け止め、自省することができるようになります。全ての dots 【原体験】に感謝することができれば、必ず次に生かせるはずです。



多様な課外活動を通して 様々なdotsを得る6年間



チアリーディング部



吹奏楽部



選択クラブ(集中教養講座)

dots【原体験】の幅を広げるため集中教養講座を数多く用意しています。夏と冬の2回、入部している部活動以外の講座を選び参加します。運動部の生徒は文化系の部活動、文化部の生徒は運動系の部活動というように、幅のある経験をすることで、新しい発見や将来に繋がっていきます。

様々なdots【原体験】を獲得

【選択例(イメージ)】

普段は野球部で活躍！でも、実は音楽にも挑戦したかったし、実験も好き、最近は将棋にも興味がある！選択クラブは、そのような1つの部活だけでは得られないdots【原体験】の幅を広げます。



行事

学校行事は大切なdots【原体験】を獲得できるチャンスです。授業では得られないdots【原体験】をたくさん得られるように、生徒主体で運営をしていきます。学校行事は本番に至るまでの準備に本気で取り組むからこそ、その時間はかけがえのない時間になります。仲間と共に一つのものを作り上げる達成感を味わったり、うまく事が運ばない苦々しい経験をしたりするなど、すべてが未来の自分をつくる大切なdots【原体験】になるでしょう。



学園祭

生徒主体で運営される最も来場者の多い行事が学園祭です。企画から運営まで生徒たちがつくる学園祭はまさに青春。お客様に喜んでいただき、かつ自分たちも楽しめる最高のイベントを目指します。



体育祭

運動が得意な生徒もそうでない生徒も、熱くなれるのが本校の体育祭です。目玉競技「応援合戦」は苦労もありますが、本番で涙を見せる生徒も。クラス対抗だけでなく、部活動対抗の競技も白熱します。



合宿・宿泊行事

宿泊や合宿は仲間との一体感が生まれます

各学年に毎年、オリエンテーション合宿(1年生)、林間学校(2年生)、修学旅行(3年生)、イングリッシュキャンプ(希望者)などの宿泊行事があります。規律ある生活の中で寝食を共にし、その心地よさを学びながらそれぞれの目的を達成していってほしいと考えています。“同じ釜の飯を食べた仲間”との一体感を感じ、いろいろなことを語り合う。そして将来、本学園の生徒同士がこの経験を基に協力し、世界、日本をリードしてほしいと願っています。



フィールドワーク

大島(三原山)での噴火口調査

普段とは異なる世界とふれあい、知的好奇心を刺激します。特に長期休業中はその時にしかできないことを経験して、たくさんのdots【原体験】を得るチャンスだと考えています。この原体験として、各教員の得意とする分野に特化したフィールドワークを実施していきます。いくつものフィールドワークから自分が興味のある分野を選択し、学校では学べない学びを体験できます。

キャリア教育

環境変化のスピードが速い中で、現在の中学校1年生が社会に出る頃には、現在とは大きく異なる社会環境になっていることが予測されます。そこで、本校のキャリア教育は、中高の6年間を通して、自らが活躍する未来の姿を理解し、自己と対面しながら、自らに合った大学選択、その先々にあら自らが望む生き方を、未来を見据えた視点から、様々な体験を通して探究していきます。

自己理解

自己と対面しながら自らの適性や価値観を分析し、職業観や生き方を理解する。
「自己分析」「社会(仕事)体験」など



未来理解

自らが活躍する未来を研究し、未来で必要とされる資質や能力について理解する。
「未来研究」「社会人講演会」など

未来を見据えた進路選択

6-Year Grand Design

細田学園では、生徒たちが「質」の高い「深さ」のある

「幅」の広いdots【原体験】を獲得できるように、6年間をデザインしています。

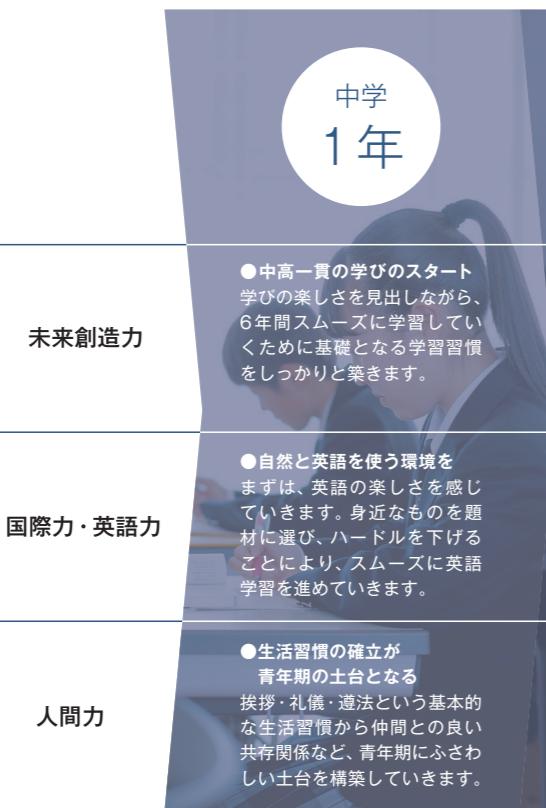
6年間で出会う「人」「もの」「こと」のすべてがdotsとなり、生徒一人ひとりの未来に繋がります。

▶「移行期」 中学1年生

小学校から中学校へと大きく環境が変化していきます。それぞれの違いをお互いが理解し、尊重し合える気持ちを育みます。



小学
6年



未来創造力

- 中高一貫の学びのスタート
学びの楽しさを見出しながら、6年間スムーズに学習していくために基礎となる学習習慣をしっかりと築きます。

国際力・英語力

- 自然と英語を使う環境を
まずは、英語の楽しさを感じています。身近なものを題材に選び、ハードルを下げることにより、スムーズに英語学習を進めています。

人間力

- 生活習慣の確立が
青年期の土台となる
挨拶・礼儀・禮法という基本的な生活習慣から仲間との良い共存関係など、青年期にふさわしい土台を構築していきます。

良い生活習慣を習得する

日常生活で身に付く人間性

登下校、授業、朝・帰りのホームルーム、休み時間では、身だしなみを整え、しっかりとした挨拶をしましょう。本校ではチャイムの前には着席、チャイム後に黙想を実施し、心を落ち着かせてから、挨拶をします。良いマナーや生活習慣、人に優しくすること、積極的な行動など、これらは日常の生活中で身に付いています。自然と振る舞えるように“当たり前”にしていきます。



学びを広げ自らを見出す

各教科の特性を通して自己発見

例えば「Subject Week」では、1つのテーマに対して複数の教科で授業が展開されます。多角的なアプローチを経験し、自分の思考・論理・表現方法と最もフィットした教科が見つかるはずです。また選択クラブもフィールドワークも自らのdotsの幅を広げる良い機会になっています。



▶「dots拡張期」 中学2~3年生

授業、HR活動、部活動、選択クラブ、フィールドワークなど、さまざまな未知なる経験を重ね、大きく幅を持ったdotsを獲得することにより、自らの特性や強みを見出していくます。



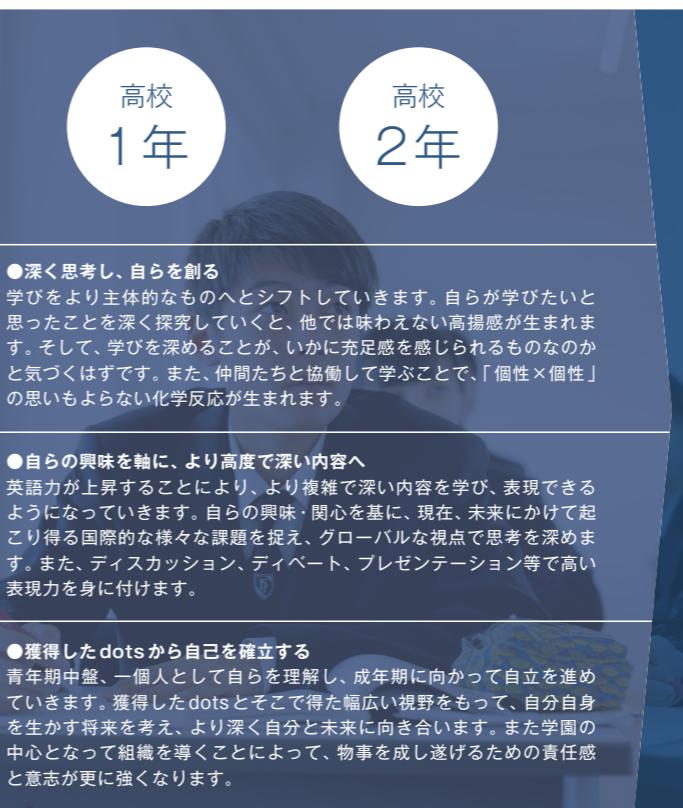
- 思考力の土台である幅広い知識を蓄える
本校独自の次世代型教育 DITOメソッドによって、学ぶことの楽しさをさらに実感できるようになります。高度な思考力の土台となる幅広い知識を大切にし、学びの基礎を築いていきます。

- 知識を広げ、国際的な視点を身に付ける
外国人講師とのやり取りや、洋書のインプット量を増やすことで、国際的な視点で物事を捉え、言語を通して様々な知識を得る楽しみを発見していきます。それと同時に自分の興味・関心に沿った選択ができるようにします。

- dots【原体験】を得て人生の幅を広げる
部活動や学校行事など、仲間と共にたくさんのdotsを得ることで、人として大きく成長していきます。クラス、部活動といった小さな社会の中で、自分の良さを発揮できる分野や自身の役割を知り、他人と協働する力が身に付きます。

▶「dots探求期」 高校1~2年生

dots獲得期で得たdotsを基に、物事を深く探求することに重点を置きます。個人で何かを研究したり、仲間と協力して何かを成し遂げたりするなど、物事を完成まで突き詰めていく素晴らしさとその方法を学んでいきます。



- 深く思考し、自らを創る
学びをより主体的なものへとシフトしていきます。自らが学びたいと思ったことを深く探究していくと、他では味わえない高揚感が生まれます。そして、学びを深めることができ、いかに充足感を感じられるものなのかと気づくはずです。また、仲間たちと協働して学ぶことで、「個性×個性」の思いもよらない化学反応が生まれます。

- 自らの興味を軸に、より高度で深い内容へ
英語力が上昇することにより、より複雑で深い内容を学び、表現できるようになっていきます。自らの興味・関心を基に、現在、未来にかけて起こり得る国際的な様々な課題を捉え、グローバルな視点で思考を深めます。また、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション等で高い表現力を身に付けます。

- 獲得したdotsから自己を確立する
青年期中盤、一個人として自らを理解し、成年期に向かって自立を進めています。獲得したdotsとそこで得た幅広い視野をもって、自分自身を生かす将来を考え、より深く自分と未来に向かいます。また学園の中心となって組織を導くことによって、物事を成し遂げるための責任感と意志が更に強くなります。

▶「dots結合期」 高校3年生

5年間で蓄積されたdotsによって、自らの特性や強みを理解し、進むべき道を選択していきます。自分の好きな領域であれば、夢の実現のために必ず努力しきれるはずです。



- 希望の進路、夢を実現させる
幅広い知識と高度な思考力・表現力に加え、主体的に学ぶ姿勢ができた生徒たちは、新テストにおいても存分に力を発揮できるはずです。自分の可能性を広げてくれる志望校への進学を目指します。

- 「愛と奉仕」を実践
ご家族をはじめ、これまでの人生を支えてくれた人たちに感謝の念を抱き、今度はその恩を他者へと送れる人になっていきます。優しさと思いやりの気持ちを持ち、誰かのためにそれを行動に移せる人になっているはずです。

自分が決めた領域で、
世の中の発展をリードする人に

大学進学がゴールではありません。大学生、社会人になんでもたくさんのdotsを得て、繋げて、自らのフィールドで世の中の発展をリードする人になってほしいと考えています。

自信と誇りをもって未来に向かう

6年間で培った力を未来へと繋ぐ

志望大学合格に向けて全力を尽くしていきます。6年間の集大成としてより学習に集中していくことになります。今まで身に付けてきた幅広く深い知識と、研ぎ澄まされた思考力・判断力・表現力は新テストに対応しています。また、信頼し合った仲間との切磋琢磨が、よい相乗効果を生み、お互いの希望進路の実現に繋がります。



良い生活習慣を習得する

日常生活で身に付く人間性

登下校、授業、朝・帰りのホームルーム、休み時間では、身だしなみを整え、しっかりとした挨拶をしましょう。本校ではチャイムの前には着席、チャイム後に黙想を実施し、心を落ち着かせてから、挨拶をします。良いマナーや生活習慣、人に優しくすること、積極的な行動など、これらは日常の生活中で身に付いています。自然と振る舞えるように“当たり前”にしていきます。



学びを広げ自らを見出す

各教科の特性を通して自己発見

例えば「Subject Week」では、1つのテーマに対して複数の教科で授業が展開されます。多角的なアプローチを経験し、自分の思考・論理・表現方法と最もフィットした教科が見つかるはずです。また選択クラブもフィールドワークも自らのdotsの幅を広げる良い機会になっています。



中心となって組織をまとめる

リーダーとして目標を持ち後輩を導く

学園全体の行事（学園祭・体育祭）では、中心的存在となって活動します。今まで培った人間性や多角的な視点と、自分の特性を最大限活用して、大きな行事をしっかりと成し遂げ、集団の中で担う役割を全うできれば、その経験により自分自身に自信が持てるはずです。それが自己の確立に繋がっています。



Making dots
and
Connecting the dots

キャンパスライフ

CAMPUS FACILITIES

施設のご紹介

Main Sports Field

細田学園には3つのグラウンドがあり、メイン・グラウンドはサッカー場と硬式テニスコートが4面あります。授業や学校行事、部活動で活発に使用されています。

Sub-Sports Field

フットサルコート2面分の人工芝サブ・グラウンドでは、サッカーボールはもちろん、その他の運動部の活動にも使用され、より一層充実した活動ができます。

Baseball Field

細田学園3つ目のグラウンドが、2017年6月に完成した野球場を含む広大なグラウンドです。野球部はもちろん陸上部などが日々のトレーニングに励んでいます。

次世代型教育を実現する 最新の教育環境を整えています

2015年8月に新校舎建設第1期工事が完了し、学園では新しい施設を利用した先進の学びがスタートしました。一人ひとりが自分の将来にビジョンを持ち、それに向けて充実した学園生活が送れるよう、常に新しいアイデアと実践の日々が続いています。その一方、2021年に迎える創立100周年に向けて、学習環境のさらなる整備も進んでいきます。進化し続ける細田学園は、「なりたい自分になっていく場所」であることを目指しています。



2017年3月、既存旧校舎のリノベーションが完了しました。2015年に完成した新校舎と同じイメージの清潔感あふれる教室に、廊下側の壁をガラス張りにしたため明るい光が差し込みます。空調設備も刷新したため、より快適な環境で学園生活を送ることができます。



明るく広々とした多目的ホールは、授業・部活動・生徒会活動などで使用されています。多様な利用形態を想定して、プロジェクター3台を備えています。



能動的な学びを支える協働学習スペースです。ガラス張りの明るい環境で、じっくり本を読んだり、仲間と知識を増やしたりすることができます。図書館の機能も果たしています。



明るくキレイなカフェテリア。お昼休みには生徒の笑顔と楽しい会話であふれます。放課後は自習室となり、静かな環境で学習に励むことができます。



3階にプロジェクターを備えた多目的に使えるクリエイティブ・ラウンジを、4階には中学生と教員のコミュニケーションラウンジを設けています。



エントランス・ホールには、自由に利用できるコミュニケーション・スペースがあります。放課後、さまざまな形で活用されています。

MESSAGE 代表メッセージ

未来を創る
担い手たちへ



学校法人 細田学園 理事長
細田 洋一郎 先生



豊かな発想と
タフな心で
時代の変化を楽しもう！

細田学園中学校・高等学校 校長
新井 健志 先生

2019年4月、創立98年を迎える細田学園に待望の中学校が開校。時代に先駆けて未来を拓く中高一貫教育「新生 細田学園中学校・高等学校」のスタートです。中学・高校の6年間は人生の中で最も大きな成長期です。失敗を恐れず、様々なことにチャレンジして、真の学びの楽しさ(探究心)・やり遂げることの喜び(達成感)を感じながら自分の可能性を広げていくことが大切です。ときには自分ひとりの力で、ときには友達と切磋琢磨しながら、次世代を逞しく生きていく力強さを身につけていきましょう。本校が目指すのは「未来創造力」「国際力・英語力」「人間力」の育成を柱に、生徒たちが社会の中心で活躍する20年後、30年後を見据えた次世代型教育です。細田学園で過ごす6年間の感動体験は、質の高い・幅の広い・深さを感じるdots【原体験】を生徒の心身の成長に合わせて積み重ねていきます。急速に変化する時代の流れを楽しみながら、社会に貢献できる未来のリーダーを育てるこそ私たち教員の願いなのです。

SCHOOL UNIFORM 制服紹介

男女ともに上品なプレザースタイル。女子はタータンチェックのスカートで華やかさを演出、男子のスラックスは知的でスマートな印象に。洗練されたデザインは、生徒たちに誇りと愛校心をもたらしてくれるはずです。

